

第 95 号

令和元年9月30日 発行

編集・発行

(一社)新潟県サッカー協会広報委員会



NiFA NEWS

いきいき茨城ゆめ国体2019

成年男子・女子出場!!

第40回 北信越国民体育大会の報告、感想、茨城国体に向けての抱負

成年男子選抜監督 有田 一矢

初めに第40回北信越国民体育大会(石川県開催)に向け7月8日(月)にスタッフ7名、選手15名(JSC11名、新潟経営大学4名)を決めました。7月14日(日)はアルビレックス新潟TOPチームとアルビレックスグラウンドで強化練習試合、8月2日(金)は岩手県成年男子チームとJAP ANサッカーカレッジグラウンドで練習試合、

8月7日(水)から三日間JAP ANサッカーカレッジグラウンドで調整練習を行い8月10日(土)11:30金沢市スポーツ交流広場(人工芝)で成年男子富山県選抜と代表決定戦を行い2対1で勝利し、3年ぶりに本国体出場を果たすことが出来ました。特に新潟経営大学のスタッフには選手選考や選手の推薦等、ご協力頂き感謝申

上げます。茨城本国体は9月30日(月)から成年男子新潟県選抜は1回戦が関東代表の成年男子群馬県選抜とト伝の郷運動公園多目的球技場B会場12時にキックオフされます。

成年男子新潟県選抜は北信越国民体育大会で戦ったメンバーで臨み、選手スタッフ共に、2007年秋田国体、2009年新潟国体、2016年岩手国体と過去にベスト4入りを経験しており、サッカーはチーム競技である以上選手には攻守において集中して冷静にハードワークで

きることを、攻守での切り替えの中では特に守から攻のカウンター攻撃。攻撃から守備の切り替えでは失点にならぬ守備の対応をゲームが終わるまで全員がプレーし続けることとゲーム中、常にコミュニケーションを取ることを重要視し茨城国体に入りたいと思います。最後に大会出場に際し北信越国民体育大会(石川県開催)会場にて新潟県サッカー協会、新潟県体育協会の関係者等、沢山の応援、声援有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

本国体に向けて

女子選抜監督 佐々木友昭

この度、様々な方のご理解とご協力のもと、北信越国体を突破することができました。そして、選手たちを大きな怪我もなく無事にチームに送り返せたことが何よりでした。ここ数年、新潟県女子委員会を中心に、選手育成に力を入れてきました。今年度は、5月に始まった一次選考会から多くの中学生に参加して頂き、各選手の技術レベルも上がってきているのを感じることができました。そのため国体メンバーの選考で非常に悩みました。今年度の北信越国体のメンバーには高校生が6名選出され、ス

ターニングメンバーとして3名出場し続けました。その選手たちが試合を重ねる毎に成長していく姿が非常に頼もしく感じられました。そこに新潟医療福祉大学、アルビレックス新潟レディースの選手達も加わり、いい刺激を与えてくれました。各チームがいい協力関係で新潟県女子サッカーの強化・育成が行われているように感じる事ができました。毎週一回の国体トレーニングでは、各選手の技術力向上を中心に置きながら、個性がうまく融合するようにチームの構築を行いました。初戦となった富

山戦では、各選手が自分の長所を發揮し、またた苦手を部分にも積極的にトライをしてくれた結果、4得点、失点0で勝利する事ができました。2戦目の代表決定戦では、非常に技術力の高い長野県に対して苦しい試合展開でしたが、全員が粘り強く守備をして、声を掛け合いながら修正し、集中力が切れる事なく戦う事ができ0-0で試合終了となりました。最後のPK戦では、チーム全体が自信を持って挑む事ができ、5-3で勝利を収める事ができました。今回の結果が出せたのは、バックアップメンバーやスタッフを含め全員が毎週一回国体トレーニングを苦手に

取り組んでくれた成果だと感じています。また今年度、選考会を含め選手を派遣して頂いたアルビレックス新潟レディース、ガールズ、新潟医療福祉大学、JAP ANサッカーカレッジレディース、グランセナ新潟FCレディース、また3種、4種年代から指導して頂いた各チームの協力なくしてこのような結果は得る事ができませんでした。

本国体に向けて、まだまだレベルアップしなければいけない事がたくさんありますが、強化・育成が一つの形になった新潟県女子サッカーの力を存分に發揮できるようにしていきたいです。今後も、ご理解とご協力をお願い致します。

なことで一生懸命取り組みます。

きること、攻守での切り替えのなかでは特に守から攻のカウンター攻撃。攻撃から守備の切り替えでは失点にならぬ守備の対応をゲームが終わるまで全員がプレーし続けることとゲーム中、常にコミュニケーションを取ることを重要視し茨城国体に入りたいと思います。最後に大会出場に際し北信越国民体育大会(石川県開催)会場にて新潟県サッカー協会、新潟県体育協会の関係者等、沢山の応援、声援有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

きること、攻守での切り替えのなかでは特に守から攻のカウンター攻撃。攻撃から守備の切り替えでは失点にならぬ守備の対応をゲームが終わるまで全員がプレーし続けることとゲーム中、常にコミュニケーションを取ることを重要視し茨城国体に入りたいと思います。最後に大会出場に際し北信越国民体育大会(石川県開催)会場にて新潟県サッカー協会、新潟県体育協会の関係者等、沢山の応援、声援有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

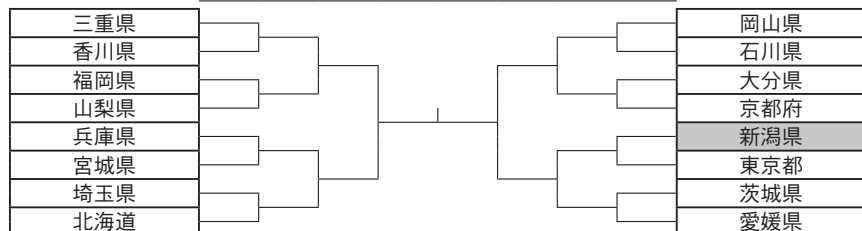


女子 1回戦 新潟県 VS 東京都

日時：2019年9月29日 12:00～

会場：ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場A

1回戦 準々決勝 準決勝 決勝戦 準決勝 準々決勝 1回戦



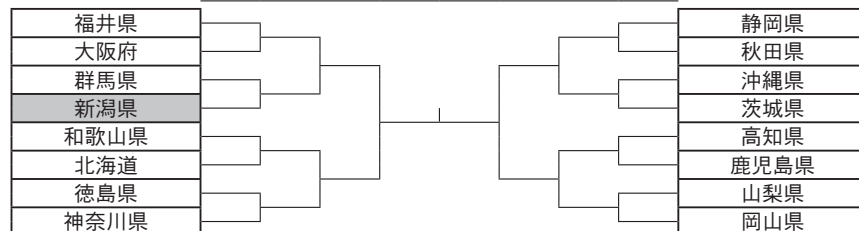
●ひたちなか市総合運動公園 (ひたちなか市)
〒312-0005
茨城県ひたちなか市新光町 49 番地
TEL : 029-273-9370

成年男子 1回戦 新潟県 VS 群馬県

日時：2019年9月30日 12:00～

会場：ト伝の郷運動公園多目的球技場B (人工芝)

1回戦 準々決勝 準決勝 決勝戦 準決勝 準々決勝 1回戦



●ト伝の郷運動公園多目的球技場 (鹿嶋市)
〒314-0007
茨城県鹿嶋市大字神向寺 23 番地 2
TEL : 0299-83-1600

第23回国際ユースサッカー in 新潟

U-17メキシコ代表の優勝で幕を閉じる

国際ユースサッカー in 新潟を終えて

U-17新潟県選抜監督 北垣 大介



今年度の「国際ユースサッカー in 新潟」は、10月にブラジルで開催されるFIFA U-17ワールドカップに出場を決めているU-17日本代表、U-17メキシコ代表と、ヨーロッパの強豪国U-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表との総当たりで7月13日～15日の3日間で行われました。

U-17新潟県選抜は、昨年の福井国体少年選抜(U-16)をベースに、U-16後期トレンセンリーグ、プリンスリーグ及びNリーグ、インターハイ県予選を通してパフォーマンスの高かった選手18名で挑みました。

リーグ戦やインターハイ前などの過密日程の中で、選手を快く送り出していたのだと所属チーム監督、ここに至るまで育てていただいたご両親、育成指導者、サッカーク関係者の方々に、そして新潟県サッカー協会のご協力・ご尽力、すべての皆様にご協力のおかげで、この場をお借りして御礼を申し上げます。

そういった中で、選手達は3日間を通して「闘争心」「向上心」そして、「感謝の気持ち」を持って闘い抜いてくれました。タイプの異なる各国の代表チームとの真剣勝負は、今後の彼らのサッカー人生において、貴重な経験となったことだと思います。

【第一戦】対U-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表 2-5 ●敗戦

長身選手を揃え、精度の高いロングボールから高さで速さを武器とするチームでした。体格差を考え、下での勝負を試み、先取点は奪いましたが、すぐさま同点に追い付かれ逆転、さらに勢いを止められず失点を重ねました。勝負に出たときのスピード・迫力・圧力は、「さすがヨーロッパ」という印象を「気持ち」の入ったゲームとなりました。

【第二戦】対U-17メキシコ代表 0-4 ●敗戦

メキシコはさほど大きくなく、日本人と似た体格だという印象を持っていましたが、この年代は違いました。長身かつテクニカル、



【第三戦】対U-17日本代表 0-1 ●敗戦

最終戦。これをもって02NIIGATAは解散、日本の同年代の代表選手達との闘い、前の二試合の悔い、国体の集大成となる試合を！と送り出しました。いろいろな思い「気持ち」の入ったゲームとなりましたが、終了間際に押し込まれ惜敗となりました。

三試合を通して、ありきたりのことですが、新潟と各国代表とでは、技術的な部分はもちろん、ゴール前の攻防、背後へのアクションなどの「精度

国際ユースサッカー in 新潟 報告書

第23回を迎えた国際ユースサッカー in 新潟は、U-17日本代表・U-17メキシコ代表・U-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表の3チーム総当たり戦で開催されました。

本大会はユース世代の強化や国際振興を目的に1997年から開催され、今年で23回目となり、特に今年10月に開催されるFIFA U-17ワールドカップブラジル大会に出場するU-17日本代表、U-17メキシコ代表にとっては強化を図る重要な大会になり、惜しくも出場を逃した

U-17新潟選抜の強化は、初日にU-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表に前半は先制し善戦するも後半は速さ、強さ、激しさに圧倒され逆転負け、第2戦は連係からチャンスを作り積極的にゴールを狙い、その実力を随所に発揮しましたが、攻撃の速さ、守備の強

U-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表は雪辱戦、昨年の国体中心メンバーでのU-17新潟選抜も昨年のリベンジに燃え、「自分たちの力がどこまで通用するか」挑戦者として挑み、将来のワールドカップ出場を夢に各国選手達が力をぶつけ合う大会でした。

試合を通して挑戦者として果敢に挑み、自信につながったプレーは随所に見られました。一方で速さ、強さ、パスの精度や奪い取るポイント、決定力など力の差が見られ今後の課題として本県サッカーを担うユース世代がどんな成長をとげるか、今大会の心懸え、悔しさを糧として今後に向けて有意義な大会

の差」がまだまだありました。例をあげると、相手ゴール前までは到達できるが、ペナルティエリア内に入ることができるが、ラストプレー・フィニッシュの精度が低くゴールに至らない、背後へのアクションと出し手のタイミング、パスの質などです。全てにおいてプレーの「精度」に差を感じましたし、実際に対峙した選手達はそのことを肌で感じ取ったことと思います。

この課題はどの国も、どのレベルでもありますが、やはり新潟県としてもさらに

最後に、02NIIIGATAをU-13県トレセンからU-15、国体として今年のU-17まで5年間担当させていただけに、多くの選手達と出会えたこと、多くの指導者の方々と関わりを持たせていただいたこと、たくさんさんの素晴らしい経験をさせていたこと、すべてに感謝するとともに、この経験を生かして今後新潟県のサッカー発展・向上のために、精進して参ります。

国際ユースサッカー in 新潟 小学校訪問交流会開催報告

国際ユースサッカー in 新潟の関連イベントとして、7月11日(木)に聖籠町立山倉小学校にU-17日本代表、新潟市立沼垂小学校にU-17メキシコ代表、7月12日(金)に新潟市立東豊小学校にU-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表チームが訪問しました。

体育館で各代表チームの選手は、大歓声と拍手で素晴らしい歓迎を受けると、子供たちからのリクエストで華麗なフットボールやシユートなどの技を披露、また全員での手つなぎ鬼や児童が交代しながらミニゲームを行い児童も選手も体育館を走り回り大いに盛り上がりました。

最初は緊張しているように見えていた子供たちも、ミニゲーム後はすっかり打ち解けた笑顔いっぱいになり、「すこい!」「かっこいい!」などの声が連発。帽子やノートにサインを書いてもらい、選手



第23回国際ユースサッカー in 新潟 大会結果

	U-17 メキシコ代表	U-17 日本代表	U-17ボスニア・ ヘルツェゴビナ代表	U-17 新潟選抜	勝点	得点	失点	点差	順位
U-17 メキシコ代表	-	2 〇 1	2 〇 0	4 〇 0	9	8	1	+7	1
U-17 日本代表	1 ● 2	-	3 〇 0	1 〇 0	6	5	2	+3	2
U-17ボスニア・ ヘルツェゴビナ代表	0 ● 2	0 ● 3	-	5 〇 2	3	5	7	-2	3
U-17 新潟選抜	0 ● 4	0 ● 1	2 ● 5	-	0	2	10	-8	4

聖籠町 スポアイランド聖籠	7月13日(土)	16:30~	U-17日本代表 VS U-17メキシコ代表
	7月14日(日)	16:30~	U-17新潟選抜 VS U-17メキシコ代表
新発田市 五十公野公園陸上競技場	7月13日(土)	16:30~	U-17新潟選抜 VS U-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表
	7月14日(日)	16:30~	U-17日本代表 VS U-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表
新潟市 デンカビッグスワンスタジアム	7月15日(祝月)	15:50~	U-17新潟選抜 VS U-17日本代表
	7月15日(祝月)	18:30~	U-17メキシコ代表 VS U-17ボスニア・ヘルツェゴビナ代表



インターハイを終えて

北越高校 荒瀬 陽介

北越高校サッカー部 荒瀬 陽介
北越高校サッカー部は、インターハイを終えて、その後、全国高等学校総合体育大会に新潟県代表として出場してきました。北越高校サッカー部として12年ぶりのインターハイへの出場でしたが、まずは初戦突破を目指し、1試合でも多くの試合を戦うことを目標に沖縄へ向かいました。



初戦の愛媛県代表の新田高校との試合では、終始北越ペースで試合を進めることができた。前半終了間際の3年田中のゴールと途中出場した2年三島のゴールで2-0とし、その後1点返されるもそのまま逃げ切り2-1で勝利を収めることができました。

中体連北信越大会を開催して

新潟県中学校体育連盟 サッカー専門部長 鷲尾 治康

令和元年を迎えた今年、新潟県中学校体育連盟では、大改革と5年に一度の北信越中学校総合競技大会の開催という、大事業が行われました。一つ目の、県中体連大改革は、政令市新潟を、一つの地区とし、上越、中越、下越、新潟市という新しい枠組みで行うというものです。

2回戦は地元沖縄県代表の那覇西高校との試合でした。地元の応援団の後押しを受けた相手の選手は出足が早く、球際では気合が入ったプレーも多くあり、なかなか北越のペースで試合を進めることができませんでした。しかし、相手ペー

3年藤吉のクロスに3年庄内が合わせ先制点を決めました。しかし、得点後すぐに失点をし、1-1になりました。試合はそのまま1-1で終わりPK戦に突入しました。PK戦が始まる前の選手達はともりラッタスとして良い表情をしていました。「自信を持って蹴る」ということだけ伝えて送り出しました。PK戦では相手の1本目を2年平山が止め、キッカーの5人は全員が自信を持ってしっかりと決め、勝利を収めることができました。

中体連新潟県大会優勝と北信越大会に参加して

村上市立村上第一中学校サッカー部 山貝 健輔

令和元年を迎えた今年、新潟県中学校体育連盟では、大改革と5年に一度の北信越中学校総合競技大会の開催という、大事業が行われました。一つ目の、県中体連大改革は、政令市新潟を、一つの地区とし、上越、中越、下越、新潟市という新しい枠組みで行うというものです。北信越大会に出場するチームにとっては、もう一度、強化とコンディショニングの調整をする期間ができました。また、3日間開催とすることで、準決勝までは、各チーム1日1試合に納めたため、暑熱対策を含め、選手の負担軽減にもつながったと考え、延長で惜しくも1回戦敗退となりました。北信越大会第3代表として出場した山の下の中学校は、昨年度の北信越優勝校であり、全国大会でも初戦を突破しています。

大会で得た経験は、次の冬の全国高校サッカー選手権大会に繋がる大きな財産になったと思います。全国高校サッカー選手権ではこの夏に成し遂げられなかった準決勝の壁を越えるために、まずは新潟県予選を全力で戦い勝ち抜き、全国の舞台に再び立てるように頑張っていきたいと思っています。

初戦の愛媛県代表の新田高校との試合では、終始北越ペースで試合を進めることができた。前半終了間際の3年田中のゴールと途中出場した2年三島のゴールで2-0とし、その後1点返されるもそのまま逃げ切り2-1で勝利を収めることができました。

2つ目は地域の支えです。保護者を初め、ジュニアの指導者、隣高校の顧問の先生など、多くの方々から御支援をいただきました。県大会、北信越大会では応援に来てくださったOBの方々もたくさんいらっしゃいます。小さい地域だからこそ、多くの方々の力を結集して闘うことができました。

チャレンジ新潟報告

技術委員会 委員長 丸山 有一

本年度も去る7月20・21日の2日間、聖セレン、福井県女子トレセンをお招きし、2日間、チャレンジ新潟が開催されました。このことができたのは、特に男子はFFP(フットボールフェューチャー)強化の一環として、県外よりチームを招聘し、2日間の交流試合形式でもあり、これに向けての準備期間も長いという点です。当初はU12県トレセン男女、U15県トレセン男女の4カテゴリーが一堂に会し試合が行われていました。U15リーグの日程が、U15リーグの日程が、U15女子の全国選手権日程重複等により、数年前よりU12男子のみでの開催となつていますが、本年度も男子はベガルタ仙台U12、福島県トレセンU12、

今年度は新潟県で開催された北信越大会を奪われ惜しくも敗戦2位で突破し、昨年に引き続き2年連続3回目となる全国大会へ出場することができました。全国大会の1回戦、中

今年度は新潟県で開催された北信越大会を奪われ惜しくも敗戦2位で突破し、昨年に引き続き2年連続3回目となる全国大会へ出場することができました。全国大会の1回戦、中

今年度は新潟県で開催された北信越大会を奪われ惜しくも敗戦2位で突破し、昨年に引き続き2年連続3回目となる全国大会へ出場することができました。全国大会の1回戦、中



付きや刺激を受け、自らのレベルアップへとつながる2日間となりました。これまでのこの活動を経て、上位のトレセンや国体選抜へいく選手も多数おり、今後もさらに内容の濃い、意味ある活動に行かなければならぬと考えています。最後に、開催に際して尽力いただいた新潟県サッカー協会ははじめ、多くの関係各位に感謝を申し上げます。

中体連新潟県大会優勝と北信越大会に参加して

村上市立村上第一中学校サッカー部 山貝 健輔

村上第一中学校サッカー部の選手が途中交代も含め、1年時から県大会のピッチに立っています。入学した段階では1回戦、2回戦敗退が続き、6年前のベスト4が最高成績でした。その中で今年度、長年の目標であった県大会優勝を果たすことができました。本年度、県大会優勝を達成することができたのは、大きく2つの要因があると考えています。一つ目は選手たちのポテンシャルの高さです。3年生の大半

今年度は新潟県で開催された北信越大会を奪われ惜しくも敗戦2位で突破し、昨年に引き続き2年連続3回目となる全国大会へ出場することができました。全国大会の1回戦、中

第50回全国中学校サッカー大会に出場して

新潟市立山の下中学校サッカー部 外部コーチ 内藤 皓

今年度は新潟県で開催された北信越大会を奪われ惜しくも敗戦2位で突破し、昨年に引き続き2年連続3回目となる全国大会へ出場することができました。全国大会の1回戦、中

「ものづくりのまち燕 なでしこスポーツフェスタ2019」

女子委員長 佐野 裕子



今年度より女子サッカー普及プロジェクトとして多くの皆様よりご協力をいただき、新たな事業をスタートすることが出来ました。

会場を屋内（燕市体育センター）に変更いたしました。地元燕市以外の方々からも多くのご参加をいただきました。汗を流した後に飲んだ「もたまきゅうりのレモネード」は、身体も心も元気がいっぱいになる最高のご褒美でした。この度は、燕市、（一社）燕市観光協会、もたまきゅうり普及委員会、燕市サッカー協会、燕市サッカー協会の皆様にご後援いただきましたことに改めて感謝申し上げます。また、新潟県サッカーファミリーの皆様にもご協力いただき、子供たちの食育も兼動に多大なるご尽力を

いただくまでありがとうございます。これから始まる小学校訪問では、ひとつの出会いを大事に、笑顔の交換が沢山出来そうです。私も楽しみながらチャレンジしたいと思っております。



「NiFA GOALS スマイル&チャレンジ」キャラバン」事業スタート！

女子サッカー普及コーディネーター 石川 正記

「オレたち、小学校でもどこでも行くよ。」

アルビレディースの奥山監督のこの言葉から



今年度の二月、聖籠町体育館の会議室にアルビレディースのスタッフと女子委員長、四種委員長ら有志が集まり、女子の普及について話し合っている時だった。女子サッカー普及コーディネーターを中心とするメンバーは、普及に手詰まり感を感じていた。2014年度から女子U-12選手の協会登録が四種に移行されたが、当時、JFAからの特段の説明はなかった。

三年後の2016年6月、JFA女子サッカー普及コーディネーターに落ち込まれた。《と



学校現場では、キャリア教育の必要性から、プロのスポーツ選手への需要はある。ただ、外部講師への十分な謝礼のための予算がなく、躊躇していた。そこに奥山監督の言葉が後押しをして、今回のキャラバンは実現した。

8月29日には、燕市立島上小を訪問した。9月5日には、新潟市立沼垂小を訪問した。掲載の写真は、その時の6年生のキャリア教育と1年生のゲームの様子です。9月11日には上越市立直江津南小を訪れる。さらに10月には四ヶ校を訪問する。現在打ち合わせ中の小学校が三ヶ校ある。普及の努力は休むことなく進行している。

※「キャラバン」の様子はURL参照のこと。

- 1、「アルビレックス新潟レディース」のホームページ <http://www.albirex-niigata-ladies.com>
- 2、「NiFA 女子サッカー普及・育成」のホームページ <https://nifajoshi.wixsite.com/mysite>

JFAレディース/ガールズフェスティバル2019新潟in新潟市陸上競技場

下越地区サッカー協会女子委員会 フェスティバル運営担当

6月23日にプレナス会場を変更しての実施なでしこリーグカップにチャレンジしました。アルビレックス新たな。

選手とのエスコートステラ神奈川相模原の試合とあわせて、「J」して試合後にサッカーFALレディース/ガールズフェスティバル2019新潟in新潟市から高校生まで、サッカーの経験ありなし関係なく、約35名の方が参加し、一緒にボールを蹴りました。試合結果は1-1の引き分けでしたが、試合

けでしたが、エスコートキッズや試合後の選手との写真撮影など盛りだくさんの内容に参加者も楽しんでいました。たくさん笑顔を見ることができ、このような活動を継続的に、エンジョイプレイヤーを含め、サッカーに興味を持つ人の増加に尽力できればと思います。



第17回北信越女子フットサル大会に向けて

フットサル委員会 谷澤 麻子

8月10日（土）、11日（日）に、第17回新潟県女子フットサル大会（兼第16回全日本女子フットサル選手権大会新潟県大会）が三条市栄体育館で開催されました。5チームの参加があり、総当り戦の結果、全勝でAllogar 2005が優勝しました。Allogar

2005は、9月28日（土）、29日（日）に福井県体育館で開催されます北信越大会へ新潟県代表として出場します。また、北信越大会の優勝チームは2019年11月2日（土）〜4日（月・祝）に石川県（いしかわ総合体育館）で開催される全日本大会への出場権が得られます。



今回、北信越大会に出場するAllogar 2005さんの監督より、チーム紹介と決意表明を書いてもらいましたので紹介します。『まずこの場でALo

gar 2005を取り上げていただきありがとうございます。私達Allogar 2005は北信越女子フットサルリーグに所属しているチームです。今回5回目の北信越大会となりますが、過去叶わなかった全国大会出場を目指し、福井県でチーム一丸となって戦ってまいります。応援宜しくお願い致します。Allogar 2005 監督 飯山

上越地区の活動

上越地区女子委員長 山崎 栄子

上越地区の活動を2つ紹介します。まず、今年度、5月から毎月「なでしこサッカーフェスティバル」と称して行っている女子サッカーフェスティバルについてです。フェスティバルを行うにあたり、今現在チームに所属してサッカーをしている選手たちが通っている選手たちが通っているスポーツ用品店、4種の大会会場にポスターを貼らせてもらったり、ちらしを配ったり、地元新聞に女子サッカーの大会やフェスティバルのことを記事してもらったり広報活動を積極的に行いました。その結果、毎回10人ずつくらい初心者参加があります。最初は遠慮してサッカースタンプを貼らせてもらっていましたが、だんだん積極的にボールを追うようになり、シュートが決まると笑顔で喜んでい



ます。このように上越地区では、既存の大会に加えて新規のイベントを開催し、既存のイベントも新規の選手やチームが参加しやすいように取り組んでいます。ぜひお近くにサッカーをやってみて、見てみたいという女子選手がいたら、遠慮なくお問い合わせください。お待ちしております。

次に、8月24日25日に第6回JFAレディース・ガールズサッカーフェスティバルIN妙高（U-12）についてです。県内チーム4チーム、県外チーム8チームの12チームの参加がありました。このフェスティバルは大会形式で行われますが、大会に参加した選手全員がピッチに立つというルールがあります。そして、今回参加してくれた選手の中に小学1年生が2人いました。上の学年のお姉さんたちに混ざって一生懸命にボールを追いかけていました。

このように上越地区では、既存の大会に加えて新規のイベントを開催し、既存のイベントも新規の選手やチームが参加しやすいように取り組んでいます。ぜひお近くにサッカーをやってみて、見てみたいという女子選手がいたら、遠慮なくお問い合わせください。お待ちしております。

第34回日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 大会に参加して

アルビレックス新潟U-15 監督 内田 潤

予選リーグ グループK (名古屋グランパス、神戸FC、Forza'02)

今大会でレベルの高いチーム、様々なスタイルのチームと対戦できたことで素晴らしい経験ができました。1戦目と2戦目の前半は素晴らしいパフォーマンスだった。人もボールも良く動きチームとして連動性ある攻守を披露できた。また、運動量・球際のバトル・セカンドボールの回収など技術や判断力以外の部分でも献身的にプレーできた。もちろん成果もあり良いものは継続/進化させていきたいが、今後は動きながらのプレーの質・ピッチ全体を見渡した判断力の向上・1対1の攻守の部分にフォーカスしながら選手達と共に進んでいきたい。決勝トーナメント(横浜FMジュニアユース戦)からは格段とレベルが上がった。正直もう少し良い勝負になると思っていたが、選手達は最後の最後までゴールを目指しアディショナルタイムに1点返すことができた。0-4からの1点と思うかもしれないが、そんなことはない!とても価値のあるゴールだ。今後も謙虚に献身的に進んでいきたい。

長岡JYFC 監督 山崎 太一

北海道帯広市で開催された第34回日本クラブユース選手権(U-15)に参加した感想として二つあります。

一つは勝負を決める突出した個の能力です。特にストライカーやアタッカーの能力として、決定力とスピードは必須です。必ず点を奪う、ボール持てば相手を剥がしていきけるといった自信を漲らせてピッチに立つ。CBは対人の強さは当然で自分を優位にする駆け引き、ビルドアップ能力に長けていなければなりません。二つ目には、チャンスとピンチを敏感に捉え『感じてプレーできる』こと。感じて動くスピードは考えることの2.5倍のスピードと言われており、ここも大きな差でありました。そのためにはやはり『日常を変える』こと、これに尽きます。トップを目指すのならば日々、ギラギラと鎬を削る日々を過ごせるか。この環境を作り出すこと、それ以外にありません。最後になりますが今大会に参加するにあたり県内チームの皆様や関係者皆様より多大なご支援とご声援を頂きました。誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

グランセナ新潟FCジュニアユース 監督 瀬戸 春樹

8月15日より北海道の帯広で開催された、第34回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に北信越地域代表として出場いたしました。

予選リーグでは、関東・関西・九州地域のチームとの組合せになり、厳しい戦いが予測されました。守備を固め、数少ないチャンスを逃さないことをチームの共通認識としたことで、2勝1敗と勝ち点を積み上げノックアウトステージへ進むことができました。ノックアウトステージでは、安易なミスが重なり、ラウンド32(初戦)敗退という悔しい結果で全国大会を終えました。全国大会という舞台上、いかにリスク軽減しながら試合を進めることが重要であるかを思い知る結果となりました。今回、全国大会に出場したことで、全国レベルを知ることができました。選手・指導者・クラブにとって、得るものが多い大会となり今後の強化に向け一歩ずつ進んでいきたいと思っております。最後になりますが、新潟県大会・北信越大会・全国大会出場にあたり、関係者の皆様より多くのご支援ご声援を頂き誠に有難うございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

「tonan」第9回北関東U-12少年サッカー大会

第9回北関東U-12サッカー大会を終えて

ジェス新潟東SC 代表 田村 務

この度、北関東U-12サッカー大会において優勝する事が出来ました。また、新潟県勢初優勝という事で炎天下のなか、最後まで諦めず戦い抜き、栄冠を掴み取った選手達の姿に感動とともに、頼もしさと成長を感じました。

今大会に向けてチームとして「攻守連動/保持・前進・フィニッシュ」を掲げ、技術習得に加え、様々な状況下での判断力を身に付けるためのトレーニング等を積んで参りました。

選手達の取り組み姿勢や向上心が技術向上に繋がったと思います。そして何よりも選手達の「新潟県代表としての大会にける想い」が素晴らしい結果に繋がった最大の要因だと感じています。

今大会は猛暑に加え、北関東のプレー強度の高い選手・チームとの対戦で非常にタフなゲームとなりました。(決勝トーナメントの準決勝は先制され終了間際に追い付き、PK戦で勝利。決勝戦も先制され追い付き、終了間際に勝ち越し2-1勝利。)

今大会は本当に選手、チームにとって、貴重なとても良い経験の場となりました。選手個人、チームとして、まだまだ高められる所は沢山あります。

高いレベルで感じた事、学んだ事を今後に生かし、これからも選手達の更なるレベルアップ、可能性を最大限に引き出し、3種・2種年代へと繋げていきたいと思っております。

最後に今大会参加にあたり、開会式・レセプションを含め3日間、新潟県チームの現地対応をしていただきました4種委員長大倉様、ご尽力いただきました皆様、選手、保護者様、チームスタッフ、ご支援、ご協力いただいた全ての皆様に感謝の気持ちとともにお礼申し上げます。



「tonan」第9回北関東U-12サッカー大会について

アルビレックス新潟U-12 監督 小林 高道

アルビレックス新潟U-12は、スポーツデポカップ第27回新潟県U-12サッカー選手権大会で優勝し8月2日(金)~4日(日)に群馬県で開催されました今大会に参加させていただくこととなりました。

強豪チームと真剣勝負の場を求めて目標としていた大会です。新潟県の代表として優勝を目指して試合に臨みましたが、伊勢崎市あずまサッカースタジアムで行われた予選リーグ。

高崎中央SS(群馬県)に4対3で勝利したものの、Uスポーツクラブ(山梨県)に2対3、箕郷フットボールクラブスポーツ少年団(群馬県)に1対2で敗れ、上位トーナメントに進むことができませんでした。

いせさき市民のもり公園汗の広場で行われた下位トーナメントでは、サームFC(長野県)に2対1、沼田サッカークラブ(群馬県)に2対2の引き分けでPK戦の末、勝利することができました。

全24チーム中、17位という結果に終わり、目標としていた優勝には届きませんでしたが、5年生中心のメンバーで参加し、強豪チームとの試合を経験することができました。

この経験を無駄にせず、自分たちの足を今一度見直し、来年もこの舞台に戻ってこられるように、努力を重ねていきたいと思っております。

最後になりましたが、今大会出場に際したくさんのご声援をいただき、また新潟県サッカー協会、第4種委員長の大倉様にも現地まで足を運んでいただき激励の言葉をいただき心より御礼申し上げます。今後ともアルビレックス新潟に温かい声援をよろしくお願いいたします。



「刈羽村ラピカ第11回新潟県キッズサッカーフェスティバルU-8」開催について
刈羽村生涯学習センター「ラピカ」 大図 彰

刈羽びあパークサッカー場を会場に今年も「刈羽村ラピカ第11回新潟県キッズサッカーフェスティバルU-8」が開催されました。今年は雨模様で少し肌寒さも感じられた大会でしたが、当日は台風の影響もあり、高温の予報が出ている難しいコンディションでした。

私は役員としてフェスティバルのサポート役でしたが、ピッチにいないことも猛暑を感じていたので、ピッチを駆けまわっている子どもたちはさらさら暑かったのではないかと感じています。そんな中でも子どもたちは朝から元気いっぱいなのが印象的でした。勝ち負けも大切ではありませんが、このフェスティバルの意義である「サッカーを楽しむ」ということが見ていて伝わってきました。また、コーチの励まし声、保護者の方々の応援する声もピッチの中にあふれ、とても良い雰囲気で行われていました。日本サッカー協会

刈羽村生涯学習センター「ラピカ」は頑張る子どもたちを応援していきます。

大会の方は猛暑による暑さの影響もあり、一部日程を変更せざるを得ない状況になりましたが、子どもたちファーストの考えから最良の判断だったのではないかと思います。最後にになりましたが、このような素晴らしい大会を開催されている一般社団法人新潟県サッカー協会、ご協力いただきました関係者の皆様にご心から御礼申し上げます。



JFAバーモントカップ第29回全日本U-12フットサル大会に出場して
エル・オウロUK 江口 和雅

この度、2年連続3回目バーモントカップ第29回全日本U-12フットサル大会へ出場して参りました。はじめに関係者の皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。夏開催ということもあり、サッカーを行えないという状況の中、室内でのトレーニングを行い、選手、スタッフ共に良い準備をした。結果は、1勝1敗1分でグループリーグ敗退となったしまいました。フットサル特有のサインプレー等にも苦しみましたが選手も試合の中でうまく対応しボールを動かしながらゴールする場面も作り出すことができました。大会を通して感じたことは、プレースピード、正確な技術、球際の激しさなどが日本のトップレベルのチームとまだまだ

だ差があるなど感じました。選手自身が個人戦術を磨くと共に、私自身ももっと理解する必要性を痛感致しました。最後に、この大会に参加できたことは、新潟県サッカー協会のサポート。県内の指導者の方によるあたたかい激励。各地区のトレスンスタッフの皆様。魚沼・柏崎・上越のチームの選手、代表監督、コーチの皆様。選手を支えてくださっている保護者の皆様。様々な支援を頂いたサポーターの皆様。心から感謝致します。そして共に様々な苦勞を乗り越えた選手たちに感謝致します。ありがとうございました。

NiFA パラ・サッカー フェスティバル 2019 のご案内

新潟県サッカー協会では、多くの方々のご支援とご理解をいただき障がい者サッカーの普及発展の第一歩とし、誰もがサッカーの楽しさに触れられるように、誰もが心からサッカーを楽しめるように、サッカーファミリー全体で新潟県のサッカーを豊かにしていくことを目的とし、継続事業としてNiFA パラ・サッカーフェスティバル 2019 を開催します。当日は多くの皆様にご来場いただき、観戦、参加をしていただきたくお願い申し上げます。

日 程：2019年10月6日(日)
9時00分～14時30分
(終了予定)

会 場：聖籠スポーツセンター アルビレッジ

内 容：カテゴリーごとの体験会や教室、ミニゲームを実施
(予定) [カテゴリー]
ブラインドサッカー、
CP (脳性まひ)、
知的障害、車椅子、
その他

対 象：障害の有無を問わず、障がい者サッカーに興味のある方

参加費：無料

第41回 JFA 皇后杯

全日本女子サッカー選手権大会2回戦のご案内

以下のとおり皇后杯2回戦を
開催いたします。

開催日：2019年11月23日(土)・
24日(日)

両日各2試合
計4試合実施

会 場：新潟市陸上競技場

* 入場無料

* 組合せ、試合時間等の詳細は
後日決定

昨年、準々決勝で惜敗したアルビレックス新潟レディースの優勝を目指した戦いがこれから始まります。力強いご声援をお願いします。

フットサル国際親善試合開催報告 ーアジア、そして世界で魅せる、日本の誇りをー



フットサル国際親善試合 2019
9月23日(月・祝) 14:00 KICK OFF
シティホールプラザアオーレ長岡

日本 1 - 2 タイ
代表 代表

9月23日(月・祝)、シティホールプラザアオーレ長岡にて新潟県初開催、フットサル日本代表とタイ代表の国際親善試合を開催した。試合は1対2でタイ代表に惜敗をしたが、満員の会場は大いに盛り上がった。

会場には1909人(報道発表)、満席の大観衆を集め、試合はタイ代表に2点を先取され前半を折り返した。観客は、「ニッポン!ニッポン!」コール、太鼓や手拍子をして大きな歓声をあげ選手を後押しし、後半は、全員攻撃に切り替えパワープレーを展開し終了間際にゴールを決め1点を返したが及ばなかった。初開催、スピードのある白熱した試合展開に会場も熱気に包まれた。

日本代表は、試合に先立ち事前合宿を刈羽村・長岡市内で行ってきた。この勢いで10月に行われるアジア選手権予選に勝ち進むことを期待したい。

NiFA マスタープラン 2007 スタート

(一社)新潟県サッカー協会は、英語名 Nigata Football Association の略称を従来の NFA から NiFA に変更し、これを「ニファ」と読みます。
また、新たなスタートを切る NiFA を象徴するシンボルマークを作成。4本の翼は新潟、上越、中越、下越の4地区協会を表し、新潟県の形も示しています。そして4地区協会の飛躍による新たな新潟のサッカーを GOAL に向かうサッカーボールで表現しました。さらに濃いブルーは新潟の空と海、地域に根ざした NiFA を表しています。NiFA はさまざまなシーンでこのシンボルマークを使用していきます。



NiFA の理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、県民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

NiFA のビジョン

- 1.新潟県におけるサッカーの普及に努め、全ての県民がサッカーに親しむ環境を作り上げる。
他の競技団体と連携し、スポーツをより身近なものとする事で、県民の健康で豊かな生活をサポートする。
- 2.新潟県を代表するチームが日本のトップレベルで活躍できるようサッカーの強化に努め、新潟県出身プレーヤーが国内外で活躍することで、県民に勇気・希望・感動をもたらす。
- 3.常にフェアプレーの精神を持ち、国内外の人々との友好を深め、社会に貢献する。

NiFA の目標 2015

2015年には、健全でゆるぎない組織となり、6つの目標を達成する。

- (1)新潟県内のサッカーファミリーが8万人となる。
- (2)Jリーグ、Lリーグに新潟県出身プレーヤーを合計で10人以上輩出し、日本代表フル代表、年代別代表等に選出される選手を輩出する。
- (3)各カテゴリーの全国大会において、新潟県チームのいずれかが常にベスト4以上の成績を修める。
- (4)JFLに加盟するチームを育成する。
- (5)各カテゴリーの全国大会、国際試合を誘致、運営する。

NiFA の目標 2050

2050年に向けて、組織基盤をさらに強固なものとし、2050年までに以下の目標を達成する。

- (1)新潟県内のサッカーファミリーが15万人となる。
- (2)Jリーグ、Lリーグに新潟県出身プレーヤーが合計10人以上存在し続け、日本代表フル代表、年代別代表等に選出される選手を輩出し続ける。
- (3)日本でFIFAワールドカップが開催される際には、サッカー専用スタジアムで試合を開催する。

●●スマイル&チャレンジ●●

当協会にご支援いただいている法人各社

TONY テレビ新潟 BSN新潟放送
新潟日報 東北電力 総合生協

2007年宣言の実現のため諸事業に取り組んでいます!!

東日本大震災 復興支援

がんばろう  ニッポン!

サッカーファミリーのチカラをひとつに!